

次期「県立高校の将来構想」

第3回「県立高校の将来構想」策定有識者会議

計画期間の変更について
変更前：令和9年度～令和18年度 → 変更後：令和7年度～令和16年度



令和6年5月15日（水）

於：新潟県自治会館別館901会議室

新潟県教育庁高等学校教育課

第3回「県立高校の将来構想」策定有識者会議

今回の意見交換のテーマ

「骨子案」策定に向けて

1 望ましい学校規模について

- これまでの「1学年あたり4～8学級を望ましい学校規模とする」という基本的な考え方を今後どのようにしていくかについて

2 県立高校等の配置について

- 「将来構想」における「5つのタイプの高校」について
- エリアごとの県立高校等の配置について

3 定時制・通信制のあり方について

- 役割の明確化と新しい定時制・通信制のあり方について

1 望ましい学校規模について

現在の「県立高校の将来構想」の考え方

1学年あたり4～8学級を望ましい学校規模とし、それに満たない学校については、他校との統廃合を検討する

【1学年あたり4～8学級のメリット】

- ◇ 多様な人間関係の中で切磋琢磨する機会が増えること
- ◇ 各教科で一定の教員数を確保できるため、一人一人の興味・関心や進路希望に応じて選択できる科目が増えること
- ◇ 多様な部活動の設置や部員数の確保が可能となり、部活動が充実すること



「遠隔教育」の導入により、小規模校のデメリットの一部を解消できるか

3

1 望ましい学校規模について

統廃合をしなかった場合の県立高校等のすがた（学校規模）

	県立 高校等数 (全日制)	R6春		中卒者数見込み 減少人数 (R16-R6)	R16春		中卒者数見込み 減少人数 (R21-R6)	R21春	
		募集学級数 (全日制)	1校あたりの 募集学級数		募集学級見込 (全日制)	1校あたりの 募集学級数		募集学級見込 (全日制)	1校あたりの 募集学級数
エリア① (新発田・村上)	9	33	3.7	▲ 351	24	2.7	▲ 740	15	1.7
エリア② (新潟)	29	139	4.8	▲ 2,005	89	3.1	▲ 3,383	54	1.9
エリア③ (長岡・柏崎)	16	63	3.9	▲ 868	41	2.6	▲ 1,593	23	1.4
エリア④ (魚沼)	9	29	3.2	▲ 346	20	2.2	▲ 640	13	1.4
エリア⑤ (上越)	11	39	3.5	▲ 664	22	2.0	▲ 1,010	14	1.3
エリア⑥ (佐渡)	4	11	2.8	▲ 152	7	1.8	▲ 218	6	1.5
全体	78	314	4.0	▲ 4,386	204	2.6	▲ 7,584	124	1.6

※「全体」のR16春及びR21春募集学級見込みは、「全体」の「中卒者数見込み減少人数」から算出している。各エリアのR16春及びR21春募集学級見込みの値は小数点以下第1位を四捨五入しているため、その合計と「全体」の値は一致しない。

いずれのエリアにおいても、中～大規模校を設置できなくなる。



本県高校教育の質の維持ができなくなる。

4

1 望ましい学校規模について

今後の基本的な考え方（案）

- ◆ 各エリアにおいて一定の学校規模の学校を少なくとも1校以上配置するため、今後も県立高校等の統合を進める必要がある
 - ・ 一定の学校規模の学校とは1学年4学級以上を想定
 - ・ 学校行事や部活動、進学に向けた学習活動などにおいて、生徒が多様な人間関係の中で切磋琢磨できるような、大・中規模の学校が必要
- ◆ 専門高校については、原則3学級以上の学校を各エリアに配置することとし、そのための統合を進める必要がある
 - ・ 統合により、例えば工業科と商業科など複数の専門学科からなる高校を設置することも検討
- ◆ 地理的条件を踏まえ、志願状況や入学状況などを評価しながら、小規模でもあえて存続させる学校もあり得る
 - ・ 存続させる小規模校においては、遠隔授業や地域との協働体制構築により、教育環境の充実を図る
 - ・ キャンパス制の導入も検討

5

新潟県教育庁高等学校教育課

2 県立高校等の配置について

現在の「県立高校の将来構想」の考え方

県内を6つのエリアに分けて、本県独自の「5つのタイプの高校」を設置する

【5つのタイプの高校】

- ◇ 専門分野を探究する高校
- ◇ 学科総合型の産業高校
- ◇ 大学進学を重視した学究型の高校
- ◇ 総合選択制の高校
- ◇ 柔軟な学びを可能とする高校

【趣旨】

同じ普通科の高校でも、役割や特色が異なるため、学科の枠にとらわれない高校の位置付けを行い、学校の役割や存在意義を明確にする

6

新潟県教育庁高等学校教育課

2 県立高校等の配置について

スクール・ミッションの策定

1 趣旨

中央教育審議会答申（R3.1.26）

各高等学校の**存在意義・社会的役割等の明確化**

2 本県における策定

令和5年3月に県立高校等のスクール・ミッションを策定

【スクール・ミッションの例】

長岡高校：長岡米百俵の精神を受け継ぎ、世界を舞台に指導的役割を果たす人材を育成する学校

阿賀黎明高校：コミュニティ・スクールとして、地域と協働し、地域を共につくる人材を育成する学校

新潟工業高校：ものづくり教育を推進し、技術革新に柔軟に対応できる生徒を育成する学校

出雲崎高校（定時制）：単位制高校の特色を生かした指導により、生徒一人一人の学びと自立を支援する学校

7

新潟県教育庁高等学校教育課

第3回「県立高校の将来構想」策定有識者会議

2 県立高校等の配置について

今後の基本的な考え方（案）

◆ 「5つのタイプの高校」の位置付けについては、各学校の「スクール・ミッション」がその役目を引き継ぐ

- ・ 各学校の役割や存在意義を明確にするという役目を果たす

◆ 各エリアに様々なタイプの学校を設置し、生徒の選択肢を確保する方針は維持する

- ・ 各エリアに1校以上の中・大規模校（1学年4学級以上を想定）
- ・ 専門学科の学習ができる学校（原則3学級以上）
- ・ 多様な生徒に柔軟に対応する学校（小規模もあり得る）

など

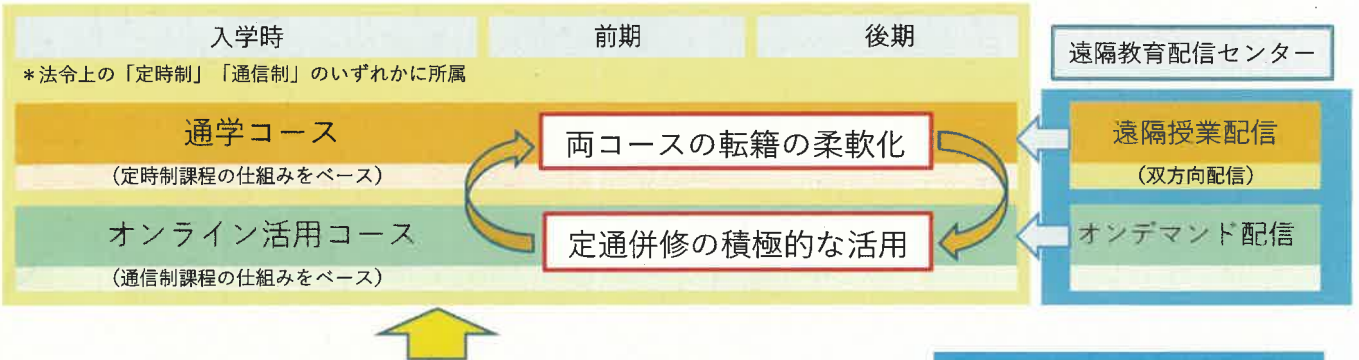
3 定時制・通信制のあり方について

従来の定時制課程・通信制課程の垣根を越えた学習方法や遠隔教育を活用することにより、柔軟で質の高い学びの機会を提供する学校を設置する。

○多様で柔軟な学習を可能とする高校

課程の枠を越えた学びを明確にするために呼称も検討

柔軟な学びの形態の例



入学機会の柔軟化が課題 = 教育の質の保証

レポートとスクーリングを適正に実施（多様な学習方法と機会の確保が必要）

レポートの実施方法の検討	集中スクーリングの実施
定期考査実施方法の検討	協力校でスクーリングの実施
ICTを活用した柔軟な対応を検討	学習機会の確保

新潟の魅力を生かした学び



【夏】
佐渡集中スクーリング

【冬】
魚沼集中スクーリング

など



新潟県教育庁高等学校教育課